



テクノツリー (明石市魚住町清水)

〈メモ〉1996 (平成8) 年創立。社名の由来は「技術の木が広く生い茂るように」との意味で、従業員153人。資本金5千万円。売り上げはマニュアルの請負、主力商品「X C-Gate」の開発などを経て右肩上がりを続け、2017年度は11億円を計上。

「紙を利用していた伝票や報告書の処理をパソコンの表計算ソフト「エクセル」を使って電子化する「XC-Gate (エクシーゲート)」が主力商品だ。「エクシーゲート」を導入すれば、工場の生産管理や製

造実績、建設現場での日報や重機の定期検査、飲食店の衛生環境のチェックもすべて一元管理できるようになる。スマートフォンやタブレットで、誰もが利用できるフリーソフトに着目。2014年には特許を取得した。

企業のデータ一元管理

「若い社員が面白いアイデアを出し、あとは私が『いいね、それ。トライしてみたら』と任せるだけです。」「こう笑うのは、木下武雄社長(76)。もともと神戸製鋼で約30年間、機械系のものづくりに携わってきた。「重厚長大な商品」を主とする大企業に身を置きながら、「自分が考えるものづくりと何が違う?」との思いが



工場の品質管理システムを分かりやすく披露するミニチュアをチェックする従業員=いずれも明石市魚住町

商品と人材 育てる社風

「それならば」と新ビジネスの起業を決心した。反対する家族を米コラド州のデンバーに連れて行き、1週間かけて起業家の実態を見せて回り説得した。「人と技術のインターフェイス(仲介役)」を方針に掲げる同社。商品導入のためのシステム変更や従業員の研修などすべてを担う。納期は最短で1カ月、ながければ1年に及ぶこともある。「顧客の重大な企業秘密までも知る立場には大きな責任が伴う」と話すのは営業推進室の瀬川俊介室長(38)。展示会用のデモ商品を最終調整するシステム開発者がせわしなく動かす手の指先をじっと見つめる表情は真剣だ。「小さな会社なので、人材を育てる楽しさが常にある」と木下社長。伸びしろがある商品と人材を生み出し続ける理由がここにある。

(小西隆久)



ラインの生産管理などがタブレットで確認できるソフト「エクシーゲート」の画面

備考:

※ 本紙に掲載された社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。